令和6年

第57回夏季大学

日 時 令和6年8月25日(日)

AM 10:15 ~ PM 3:30

会 場 静岡市民文化会館 中ホール

一般社団法人 全日本煎茶道連盟

中村 羊一郎

(なかむら よういちろう)

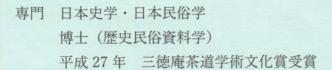
1943年 静岡市生まれ

1965 年 東京教育大学文学部卒業 静岡県立静岡高等学校教諭 静岡県史編さん室長 静岡県内高等学校長を経て

2003年 静岡産業大学情報学部教授

2013年 静岡産業大学総合研究所客員研究員

2022年 静岡市歴史博物館館長 現在 同館名誉館長



著書 『番茶と庶民喫茶史』(吉川弘文館) 『お茶作り名人紀行』(羽衣出版) 『イルカと日本人』(吉川弘文館) 『ミャンマー いま、いちばん知りたい国』(東京新聞) など多数



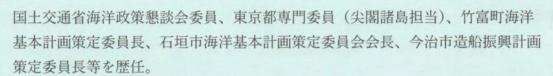
山田 吉彦 (やまだ よしひこ)

1962 年 千葉県出身 博士 (経済学) 東海大学海洋学部教授、海洋コメンテーター 専門は海洋政策、海洋安全保障、海洋経済、 離島振興 等

1986 年学習院大学卒業後、銀行員を経て 1991 年財団法人日本船舶振興会(現日本財団) に勤務、海洋船舶部長、海洋グループ長などを 歴任。勤務の傍ら埼玉大学大学院経済科学研究 科博士課程後期を修了。

2007 年東海大学海洋学部准教授 2008 年教授就任

2019年~2023年静岡キャンパス長 (学長補佐)。



八重山自然大使、日本沿岸域学会理事、公益財団法人国家基本問題研究所理事。

主な著書:日本の国境(新潮新書)、海賊の掟(新潮新書) 日本は世界四位の海洋大国(講談社+ α 新書) 完全図解・海から見た世界経済(ダイヤモンド社) 国境の人々・海洋国家日本の肖像(新潮選書) ONE PIECE勝利学(集英社)

日本全国お魚事典 (海竜社)、日本の海が盗まれる (文春新書) 等



第57回 夏季大学

8月25日(日)

9:30~受付

10:15 ~ 開講式

10:30 ~ 第1講 中村羊一郎 氏 番茶から煎茶へ

-アジアにおける日常茶の変遷- 』

12:00~ 昼食

13:30 ~ 第2講 山田吉彦 氏 『 茶貿易から見た国際関係史 』

15:10 ~ 閉講式

15:30 終演予定

一、この一碗の煎茶こそ 一、この一碗の煎茶こそ 世界の人にお煎茶を

一、この一碗の煎茶から 心と心 かよわせて みんなの楽しさ生れます まるやかに

集う仲間の煎茶がられとい 触れあって おんなの喜び生れます

全日煎の歌

番茶から煎茶へ

―アジアにおける日常茶の変遷―

静岡市歴史博物館名誉館長 中村羊一郎

- 1 お茶は何色?
- 2 「ちゃっきりぶし」の背景

安価な女性労働力 手摘み作業 茶摘み歌の世界

近代化の進展 茶鋏の普及 北原白秋が耳にしたリズミカルな音

3 お茶は飲み物か、食べ物か

東南アジアの Miang 中国の Cha

4 番茶の世界

戦国時代の『日葡辞書』 Bancha 上等のでない普通の茶

(上流階級の抹茶と対比)

粗放な製茶法 「蒸し」 「乾燥」

抹茶(碾茶製造の基本 新芽を蒸して焙炉で乾燥)

殺青と乾燥 わずか2工程 番茶製法と同じ

5 日常茶飯

朝茶 茶粥 奈良茶 庶民の食べ物 庶民の飲料として都市民にも普及

6 釜炒り茶と蒸し製煎茶

文人の教養と趣味 香り 色合い 淹れたときの色(濁った抹茶と対比) 永谷宗円の工夫 碾茶・番茶の製法のいいとこどり 急須の普及

煎茶 せんじちゃ → せんちゃ

7 お茶の社会的な役割

人と人を結ぶ

8 急須文化の危機

ペットボトル茶の普及 簡易な喫茶法

急須での飲用 江戸時代中ごろ以降の流行

流行は廃れる

緑茶の世界的需要は拡大中なのに 国際商品となったがためのコスト競争

茶産業の衰退 生産農家の減少 中山間地の過疎化 後継者不足

喫茶文化の復興と活用

茶は人と人を結ぶ 社会的な機能 「茶は文化なり」という認識が不可欠